

高岡市教育将来構想検討会議 第2回学校教育小委員会 議事録

- ・日 時 平成30年5月25日 15:30～
- ・場 所 高岡市役所 本庁舎502会議室

事務局：本日の小委員会では、①これからの高岡の教育を考える懇談会で示された方向性を受けて今後の高岡市の教育の目指す方向性について、②小中一貫教育の先進事例を聞いてその進め方について、③五位中学校区統合小学校建設の進め方について、の3点についてそれぞれ意見を頂きたい。

教育基本法や学校教育法等についてスライドで説明。

教育の目標や教育で何を重視するか法律での規定を説明。また、A Iの東ロボくんのプロジェクトを紹介し、中学卒業時の読解力不足を危惧。

委員長：協議事項1「高岡市の教育課題と目指す方向性について」事務局より説明をお願いします。

事務局：「高岡市の教育課題と目指す方向性について（資料1-1）」、「未来を担う子どもたちを育むこれからの高岡市の教育充実に係る意見交換会意見のまとめ（資料1-2）」の説明。

委員：教育は知・徳・体と言われているが、「幸せに生きる」には徳が重要で土台だと考えている。教育大綱の基本方針に「豊かな心を育む」とあるが、教員はどのような共通認識をもって教育にあたっているのか。高岡市総合計画の基本方針（教育関係）には、自他の生命や人権を尊重する心の教育とあるが、その他にも体験や部活動等を通じて得られるものもあるのではないか。

委員：道徳を意識して教育にあたるように努めている。人を認め、人から認められることで、人との関係が高められると考えており、私は特に拍手が起こる場面を多くつくるように意識している。今だと市民体育大会で各部活動の選手がみんなの前で話す機会があり、その際に拍手をもらい人から認められていることに気付くということがある。運動会のリレーでも選手紹介を行っており同様の効果がある。

委員：豊かな心は、音楽を聴いたり、体育で負けて悔しい思いをしたり、人の意見を聞いたり、感動したりすることで育まれる。

委員：学校では徳が基本である。人間関係が大事であり、まずはあいさつである。児童生徒同士はもちろん児童生徒と教員とのあいさつも大事。取り組み方は各学校で異なるのではないか。

委員：高岡市総合計画の基本方針（教育関係）に「②地域に開かれた特色ある教育活動」や「④産学官の連携」とあるが、②は具体的にどのような内容なのか、④は地元大学（芸文や法科大）との連携があるということなのか。

- 委員：多様性を受け入れる人間づくりが必要。自分の子どもは市内の小学校に通ったが、中学校は市外の中学校に入学した。小学校でいじめを放置する環境が許せなかったためである。教育では徳が一番大切と考える。
- 事務局：現在、学校で問題が起きた場合、教員ひとりでは抱えずにチームで解決することが基本である。比較的難しくない問題であれば担任、生徒指導主事、教頭の3名でチームを編成し対応する。大きな問題では全校体制で対応する。情報共有の必要性を認識し、昔とは変化している。
- 委員：いろいろな共同体験をすることが大切である。教員の方には児童生徒に「どう生きるか」を指導して頂きたい。
- 事務局：地域との連携では新川地区が活発であり高岡市は不十分という意見を聞くが、いかがか。
- 委員：人口減少による地域崩壊の危機意識が新川地区は強い。地域に残る生徒を育てるよう教育しており、富山大学と連携して取り組んでいる。高岡市では、どこに相談すればよいか分からない。市内で県外私立の中高一貫校の広告が見受けられ、高岡の教育が他の地域から侵食されているような感覚を覚える。重い命題と認識している。
- 事務局：高岡市で市民から認めてもらえる高い教育を提供しないと空洞化が進むと考える。県内に開校予定の私立小学校では50名/学年の定員とされている。県内のある中学校では生徒の半数が進学校に進学する実績があり、教育に関心がある人はそこへ流れている。
- 委員長：学校と家庭と地域で教育の役割分担があると考えますが、PTAの方向性はどうか。
- 委員：子育ては家庭にあり、愛情や生活習慣は家庭で教えるものである。ただ、人の家の中のことにまで口出しはできないため、PTA連絡協議会では、「親学び」を実施している。入学児検診に合わせて実施することにより多くの保護者に参加して頂き、親同士が仲良くなれるような環境をつくり、教員の方をPTAで応援していきたいと考えている。今年度は数校で実施予定である。
- 委員：小学校では長年PTA役員を経験してきたが、活動に常に参加しない父母がいる。親同士が顔を合わせることが重要である。また、子どもの成長には体づくりも重要である。立山登山では、PTAの有志が児童の登山補助を行っていた。
- 委員：子どもが将来地元に戻ってくる教育が必要である。地域の良さを高校や大学に進学したときに実感できるように意識している。また、進学で離れて暮らす大学生に向けて小学校のホームページで活動内容を発信しており、高岡を離れた学生が、高岡を思い出して頑張る活力になればよいと考えている。
- 委員：先ほどPTAで教員を応援するという発言があったが、大変ありがたく心強い。校長になって実感するが、PTA役員の協力が非常にありがたい。PTA活動に参加しない保護者にも広まってくれたらと願う。

委員長：協議事項2「小中一貫教育について」と協議事項3「五位中学校区統合小学校について」、事務局から説明をお願いします。

事務局：小中一貫教育について先進事例を事務局から説明。

五位中学校区統合小学校について説明。

委員：五位中学校区の統合小学校については小中一貫校のモデル校として是非早急に推進して頂きたい。現実的には、まず統合小学校を整備して、中学校の建て替えのときに、施設一体型とする方がよいと思う。小中一貫校のメリットは十分理解でき、また必要性を感じる。富山大学附属中学校や富山市の小中連携校は学力が高いと聞いている。施設は分離型だが小中が併設し連携しているためではないか。自分が市内の中学校から市外の高校に進学しそのことを実感した。早い時期からの英語教育の導入が必要である。5・4制や4・3・2制の導入は各校の一貫教育の進み具合により導入すべきだと考える。五位の他に高岡西部中学校下でも進めるべきである。川原小学校は非常に小規模であることと、千保川の浸水域にあり防災上も適切と言えない。例え施設分離型であっても小中一貫教育は進めるべき。

委員：五位は小と中が近くなるため、乗り入れ教育を実施すべきである。富山大学附属は受験があるので、入学する児童の元々の学力が高いということもある。

小中一貫教育は、教員の多忙化を考慮すると、急激な変化は避け、無理のない形で進めるべきである。教員増は、市独自で解決できる話ではないためである。5・4制や4・3・2制の導入については転校生を考慮すると児童や教員が混乱するのではないか。5・6年生への教科担任制導入は良いが、中学校で生じる穴を小学校の教員で埋められるのか疑問である。様々な課題を想定し、考慮しながら進めるべきである。

委員：知・徳・体の知を伸ばしたい子どもがいれば、小中一貫制度のなかで伸ばしてあげるべきである。高岡市内には単級で20人弱/学年の小学校が複数あるが、スピード感をもって統合への対応が必要である。児童数が増えることによる摩擦も子どもの成長には必要である。平米小学校と定塚小学校の子どもは、体験する幅を広げるためにも統合が必要である。

委員：五位中学校区統合小学校は建物の整備が先行するのではなく、既設建物を利用して早急に統合してはどうか。また、統合後もそれぞれのブロックで特色があれば高岡市としても特色が出るのではないか。先日、平米小学校の運動会を拝見したが、運動会として成り立たない状況である。定塚小学校と早急に統合し、定塚小学校に入るべきである。

委員：五位で今後、小中一貫教育が進むことを考えるとワクワクする。理由は2つあり、1つは小中が隣接することにより地域の特色を活かした独自の教育ができること、もう1つは小学校と中学校で文化が違うため乗り入れしづらいと言われているが、小・中学校それぞれで良さがあり、解消していく過程を考えられる楽しみがあることである。その初代校長を羨ましく思う。

委員：自身は千鳥丘や東五位小学校で教員を経験しており、子どもたちが統合小学校を楽し

みにしていることを知っている。その理由としては、現在、競う相手がいない状況であり、子どもたちは刺激を求めていること、人数が増えることによりクラス替えなどができるようになることがある。しかし、小中一貫教育を推進するにあたり6・3制や5・4制などの課題を解決すべきである。建物の整備とカリキュラムの問題は同時に進める必要がある。

委員：五位の小中一貫教育が実現すれば五位の特色が出てくると考える。小中一貫教育が高岡の各地域で実施されれば地域ごとに特色が出る。隣接する通学区域を対象に学校選択制の導入を今後検討してはどうか。デメリットもあるかと思うが。

事務局：新しい学習指導要領が実施されると小学3～6年の時間割りは月曜日以外6限までとなる。教員は新たにプログラミングや英語教育に取り組まなければならない。しかし、小中一貫教育であれば9年間でカリキュラムの整備ができるため、中学校へ進学した際に重複する授業は削減できる。

ワザバー：私からは五位中学校区統合小学校の経過について説明する。統合の話は約10年前に教育委員会からあった。当初は福岡小学校や国吉小学校も含めて協議していたが最終的に福岡と国吉は抜けた。石堤小学校は国吉小学校と統合するという話もあった。しかし、中学校区が高岡西部となることから五位中学校区での統合にまとまった。以前に市内中心部の平米小学校や川原小学校の統合の話がまとまらなかったために五位中学校区へ声が掛かったと聞いている。3校が統合すると全校児童約500名となる。東五位小学校の既設校舎では270名（最大300名）程度しか受け入れることができないため統合前に新校舎が必要となる。先ほどの教育長のスライドでもあったが英語教育については、自身が20数年前ソ連に仕事で行き学校教育を見た際にロシアの小学校で2年生が外国語を書く学習ではなく話す学習をしていた。日本は外国語教育導入が遅れていることを感じた。経過については以上である。

委員：五位中学校区の統合小学校は早く進めて欲しい。

委員長：以上で協議事項について終わります。

以上